



なんでやねん



発行責任者 倉橋 忠

No. 6 3

税の作文に取り組んだことで「学校表彰」されました

11月15日に、君たちが取り組んだ「税の作文」の表彰式がありました。大庄北中学校は、作文の提出率の多さが際立っているとのことで「学校表彰」されました。

その際に、大庄北中学校のA. Kさんの作品が尼崎市租税教育推進協議会会長賞に選ばれました。作品を紹介するので、読んで欲しいと思います。授業で学んだことを土台にしながら自分でも調べて、日本の税制度(消費税)とデンマークの税制度の違いを比べながら、税制度の持つ意味を追究しています(ふりがなは倉橋)。

外国の税の使い道について

皆さんは税の使い道について考えたことがありますか。また、外国の税とはどのようなものか不思議に思ったことはありませんか。そこで、日本と外国の税のことについて調べようと思います。

外国では消費税にあたる税金は付加価値税といいます。欧州諸国の多くは約20%の税率を導入しています。税率の高さで最も目を引くのは北欧の3国であるスウェーデン、デンマーク、ノルウェーです。3国の付加価値税はなんと25%なのです。物を購入するたびに25%も税金を納めたらすごく大変なんですよ。税金が高いととても幸せと思う人はあまりいないと思います。しかし、国民の幸福度ランキングでは、付加価値税を25%も納めているデンマークが世界1位なのです。つまり、納めなければならない税が高くても、税金の使い方によって幸せに暮らすことができるということです。では、デンマークでは税金をどのように使っているのでしょうか。

まず、デンマークは国民の負担が大きい分、国のサービスが充実しています。例えば、医療費や教育費はすべて無料です。小学校から大学までの授業料も無料です。さらに、受験も偏差値もないので、良い学校に入りたいと思う感覚がありません。私たちが住む日本には受験があり、誰もが通らなければならない壁ですが、デンマークには受験がないと知り、少し羨ましかったです。

他にも出産にかかる費用もすべて無料なのです。妊婦になってからの検診も無料で受けることができます。その人の自宅で子供達を預かる制度の保育ママや、自宅に来てもらって、子供の面倒を見てもらう制度のベビーシッターのサービスも充実しています。利用料の75%は助成金でカバーされるので保護者の負担額も非常に少ないです。これらのような出産・育児制度により、デンマークでは一時期1.38まで落ち込んでいた出生率を、約1.9にまで改善したのです。ちなみに出生率とは、女性一人が生涯で出産する子供の数のことです。日本は現在、出生率約1.4と深刻な少子化問題を抱えています。デンマークのように税を使って育児制度を充実させれば、日本の少子化問題もいつかは改善できるときがくると思います。

日本では最近、消費税が5%から8%に上がりました。いつかは10%になるという話があります。賛成より反対の意見の方が多いと思いますが、税の使い道によって意見が変わってくると思います。デンマークなどのように日本も国民全員が実感できる税金の使い方をしたら、誰もが納得するような生活をおくることができると思います。